

パワーリベラメンテ導入記(1)

—導入準備—

1. リベラメンテシリーズ導入の経過

インフラノイズのケーブルはリベラメンテ以来、継続して導入してきており、それらの評価の一連のレポートは当 HP のオーディオ実験室のケーブルのページに収載しております。

リベラメンテ

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/11/リベラメンテケーブルを聴く 1HP 収載.pdf>

デジタルリベラメンテ

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/11/デジタルリベラメンテ報告 1HP 収載.pdf>

クロックリベラメンテ

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/11/クロックリベラメンテ試聴報告 1HP 収載.pdf>

スピーカーリベラメンテ

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/11/スピーカーリベラメンテの試聴 1HP 収載 1.pdf>

今回、上記に加えてパワーリベラメンテ発売のアナウンスがありましたので、導入を決めました。

2. パワーリベラメンテのアナウンス

今回発売のパワーリベラメンテですが、ACPL-1.3/ACPL-2.6 の 2 つの長さのものが発売とのアナウンスがありました。

<http://www.infranoise.net/products/>

<http://www.phileweb.com/news/audio/201502/12/15515.html>

http://www.pc-audio-fan.com/news/audio/20150212_71282/

<http://art.pepper.jp/archives/002034.html>

[規格]

- 音楽録音再生専用電源ケーブル
- 許容電流 15A
- 導体断面積 2.5Sq
- ヒアリング、手造りによる組立とチューニング

- 特殊構造による外来ノイズ遮断
- SDL(シンセティック・ダンピング・リキッド)により振動コントロールされた超高分子量繊維による整振構造
- 100%の純毛を編み上げたウールケーブルジャケットによる音質調整



どういったところに効果があるか、インフラノイズに問い合わせてみると、どこに使っても良いが、PCの電源供給に使ったら顕著な効果があったとの情報を得ました。また、各機器毎に使用するのが理想的であるが、もっとも効果の大きい機器に選択集中するのもいいのではないかとのことでした。しかしながら、各機器毎に使用するとすれば経費がかかりすぎますし、着脱可能でない直付けの電源ケーブルのもの、ACアダプターで供給するものなどさまざまなので、まずはオーディオグレードのタップで電源ケーブルが着脱式になっているものから始めることにしました。

3. 導入準備と試聴の進め方の方針

電源ケーブルは個々の機器それぞれに使用すると効果は大きいことが予想されますが、費用がかかりすぎますので、機器をグループ分けし、そのタップへの接続に使用するということにします。機器のグループ分けはこれまでも、①プリアンプまでのアナログ入力系、②デジタルトランスポート系、③その他のデジタル入力系、④パワーアンプ系などに大別していますが、機器が増えるに従い、グループ分けも混在してきていますので、この際パワーリベラメンテの効果がわかやすいようにきちんと整理した上で評価を行っていくことにしました。そして、まずはプリアンプまでのアナログ入力系とデジタルトランスポート系以外のデジタル入力系を対象を絞りました。デジタルトランスポート系やパワーアンプ系については段階的に効果を見ながら考えていきます。

3-1) アナログ入力系

現在、アイソレーショントランスからチクマのタップとの接続に10年前くらいのオーディオグレードの電源ケーブル(メーカー名不明)を使用していますので、このケーブルをパワーリベラメンテに交換します。ここからの電源供給はLINNとガラードのターンテーブル、2台のiPhonoおよびしなの音蔵のプリアンプとします。47研究所のフォノイコライザーやMark Levinsonのヘッドアンプは差し替えて適宜交換するものとします。

3-2A) デジタル入力系

現在、アイソレーショントランスからチクマのタップの接続に10年前くらいのオーディオグレードの電源ケーブル（KIMBER 製）を使用していますので、このケーブルをパワーリベラメンテに交換します。ここから電源供給は、CCV-5、MYTEK DIGITAL 192-DSD、SWD-DA10、DA-3000 および PC にします。

3-2B) デジタル入力系

もう一つのデジタル入力系は非オーディオグレードの一般家電用タップを使用していますが、このタップの電源を3-2A)のタップからの橋渡しで取ることにします。このタップからは、DAC-1、PC オーディオ用の HDD と Plextor の CD ドライブ、USB-201、SWD-CT10、ES-OT4 などに給電します。TV とブルーレイレコーダーは、常時通電するために別の系統にし、さらに GPS-777、ABS-7777 のクロックジェネレーターや CCD-6 のクロックディストリビューターもクロックを安定化させるために事前通電することが多いので別系統とします。

上記の整理の結果、デジタル系とタップを共有していたフォノイコライザーの AC アダプターをアナログ系に移し、一般家電用のタップを使用していた PC の電源をオーディオグレードのタップに移しましたので、それだけでも好ましい方向の変化がありました。さらに PC の AC アダプターまでの給電のメガネケーブルを付属品から他の箇所に使っていたオヤイデのオーディオグレードケーブルに替えますと、PC オーディオの音も変わりました。即ち、アナログの再生はフォノイコライザーの AC アダプターがデジタル系と分離したことから若干すっきりし、PC オーディオの方はケーブルの交換でウオームで深みのある音の方向に変わりました。この状態を出発点としてパワーリベラメンテが入手でき次第、その効果を確認していくことにします。

今後の課題としては、この一般家電用タップをオーディオグレードとし、パワーリベラメンテを繋ぐこと、および上記の対象外となった、クロック関連機器や EMT981 などのトランスポート類ならびにアンプ関係をどのように扱うかが残ってきます。

4. まとめ

上記のとおり導入準備と試聴の進め方の方針を定め、今後の課題を整理しました。電源供給のグルーピングを見直した結果、若干の改善が見られましたので、この状態を出発点として、次報から実際のヒアリングに進みます。

以上